

2011年4月1日～2022年7月31日の間に リハビリテーションセンターにおいて 言語聴覚療法を受けられた方及びご家族の方へ

—「言語聴覚療法を受ける幼児における構音障害の実態と 訓練適応基準に関する検討」へのご協力のお願—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医療福祉大学 言語聴覚療法学科 助教 山崎志穂
(併任：川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 言語聴覚士 山崎志穂)
研究分担者 川崎医療福祉大学 言語聴覚療法学科 教授 塩見将志
川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 言語聴覚士 宮崎彰子

1. 研究の概要

子どもの発音は6歳頃に完成するとされていますが、幼い子どもの場合には誤り方はまちまちであり、自然に改善されるものなのか訓練が必要なのかを判断するためには評価者の習熟度が必要です。ことばの遅れや発達の遅れがみられる幼児であると、なおさらその判断には難渋することが考えられます。この研究の目的は、言語発達遅滞、発達障害（疑いを含む）の診断を受け、言語聴覚療法を実施した幼児・児童の中にどの程度発音の問題が認められるのか、発音に関する訓練を実施する場合にどのような発達の因子が関係するのかを明らかにすることです。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2011年4月1日～2022年7月31日の間に川崎医科大学附属病院において、構音の不明瞭さを認め、構音を評価する検査、訓練を受けた3～10歳の幼児・児童50名を研究対象とします。

対象者の選定にあたり、口蓋裂などの器質的疾患による構音障害児は除外します。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2026年3月31日

3) 研究方法

2011年4月1日～2022年7月31日の間に当院で言語発達遅滞、その他の発達障害（疑いを含む）の診断により、言語聴覚療法を受けた幼児を対象に、研究者が診療情報をもとに構音の不明瞭さについて評価、訓練を行った児のデータを選びます。その上で、その他神経心理学的検査や言語検査等を電子カルテから抽出し、構音発達の様相、訓練適応について検討します。

4) 使用する情報の種類

情報：年齢、性別、併存疾患、構音検査、神経心理学的検査、言語検査、言語聴覚療法記録 等

5) 外部への情報の提供

この研究に使用する情報は、以下の研究代表機関に提供させていただきます。提供の際、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し、提供させていただきます。

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 助教 山崎 志穂

6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンターおよび川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、主たる養育者）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2024年12月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科

氏名：山崎 志穂

電話：086-462-1111 内線 54631（平日：8時30分～17時00分）

ファックス：086-464-1109

E-mail：yamasaki@mw.kawasaki-m.ac.jp

<研究組織>

研究代表機関：川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 助教 山崎 志穂

研究分担施設：川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 言語聴覚士 山崎 志穂

3. 資金と利益相反

本研究は、科学研究費助成事業（科研費）基盤C「幼児期における異常構音迅速検出システムの探索－機械学習による音と運動の分析－」の公的研究費と学内研究費を用いて実施します。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医療福祉大学利益相反委員会、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。